

令和7年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	○1 学期の定期考査の正答率から分析すると、知識・技能の正答率が低い。	○漢字や語彙、文章の型など、繰り返し学習させて身につけさせる。		
数学	○単純計算、主に小学校の算数から苦手な生徒が非常に多い。その分、頑張ろうとしている生徒も多く、中学校の内容は理解しているものの、単純計算で躓き、学習意欲、授業規律の低下にもつながっていると考ええる。	○支援員と協力しながら、数学が苦手な生徒に必要な支援をしていく。とりわけ、小学校での既習事項を含む基本的な計算能力を身につけさせる。【決定】 ○協働的・探究的な授業を実施し、数学の学習内容を日常生活と関連付け、思考力を育てる。【対話・発見・表現・決定】		
理科	○生徒自身でまとめた考えを発言し合い、表現し合うことや、他者への意見傾聴への課題。 ○主体的に学習に取り組み、自ら課題を見つけて、その課題に向けて学習ができる ○実験結果について、なぜ再現性のある結果が得られなかったかを自分で考え、まとめ、それを自分の言葉で表現することへの課題。	○実験の予想や振り返りの際に自分の考えを発言、共有する時間を適宜設ける。【対話】 ○学習内容を既習事項や身近な自然現象と結び付けさせた後、新たな課題を見つけ、探求していけるような意識づけを促す。【発見・決定】 ○実験結果について考える時間を設け、自分でまとめ、仲間と意見を話し合う時間を作る。 【表現・対話】		
社会	○授業中には多くの発言があるが、定期考査の結果を見ると、学習内容の理解度は個人差が大きい。(課題①)。 ○自分の考えを自分の言葉でまとめたり、考えたことや話したことを表したりすることが苦手な生徒は多い。(課題②)。	○課題①②の改善に向けて、重点項目である ICT の活用を通して生徒の社会的事象への関心を高める。【発見】 ○重点項目であるグループ活動の頻度を増やし、話し合いや教え合い活動を通して考えを深める機会を増やすことで、自分の考えをまとめたり、表現したりする力を育てる。【対話・決定・表現】 ○以上の活動を通して学習内容の理解の深化を図る。さらに単元ごとの小テストを実施する。		
音楽	○実技については前向きに歌う姿勢が見られる。変声期にも配慮しながら、よりよい発声で歌えるようになることが課題である。 ○生徒が自分たちでパート練習を進められるようにすることが課題である。	○常に響きのある声で歌うことを意識させ、授業の様々な場面でよい例を褒め、自信を付けさせる。【対話・表現】 ○自分たちでパート練習を進めるといいう形をまずは定着させられるように、毎回振り返りをしながら、自分たちでできたという経験を重ねてさせていく。【発見・対話・表現】		
美術	・作品全体としての美しさや面白さに気づき、より高度な技能に挑戦し、作品制作をすること。 ・授業での学習内容の用語を使い活用したりすること。	・授業の導入で短時間、参考になる生徒の作品を紹介する。また、生徒同士の話し合いによりお互いのやさや工夫に気づき、自分にはない表現や工夫を広げる。【対話・表現】 ・美術の記録に美術の用語を活用し記入させる。参考の資料や動画などを提示する。【発見・決定・表現】		
技術	・製図学習において、理解力の高い生徒は大学生レベルの問題も解くことができるようになったが、ごく基本的な問題も理解できない生徒もあり、理解度の差が大きい状態になっている。	・理解力の高い生徒向け練習問題を用意したのと同様、基本的なことが理解しにくい生徒対象の問題を充実させる。【発見】		
家庭	・発言も多く、授業を意欲的に受ける姿勢が見られる一方、知識を定着させて定期考査などの実践問題に生かすことに課題がある。	・授業の導入部分に、前時で学習した内容のミニテストをクイズ形式で取り入れ、知識の定着を図る。【発見】		
保健体育	・自らの課題や、仲間の課題を正確に発見し対話しながら改善に向かうこと。 ・自分の動きを、自分自身で正確に把握すること。	・見つけた課題を仲間同士で共有しあう時間を授業内で意識的に作る。【対話】 ・動きのポイントを示した学習カードや動画撮影の充実を図る。【発見】		
外国語	・小学校での既習内容の定着の差や、それによる英語に対する関心・意欲の差が大きい。 ・ライティングにおいて、正確に単語や文を書くことが困難な生徒が目立つ。	・帯活動やワークシートを用いて、既習内容を復習する機会を多く設けていく。【対話・表現】 ・授業の中でスピーキング活動をした後、ライティング活動につなげていくことで、自然と書くことに対する抵抗感をなくしつつ、機会をより多く設けていく。【発見・決定・表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	○スピーチをしたり、スライドを使って発表したりする力は小学校から培われているものの、自分の考えを作文のかたちで言語化し、適切な表現を使って書き表す力が乏しい。また、漢字が書けない、そもそも文字を書くことを面倒くさがるといった課題もある。	○まずは短い文章から自分の考えを書く練習をさせる。その上で、添削や推敲をどのように行うべきかを、お互いの文章を読みながら考え、適切な言葉に直す力を育てていく。また、漢字が定着するように、積極的に漢字を使用して文章を書かせる。【発見・表現】		
数学	○昨年度と比較して、思考力・判断力が身に付いているが、最終的な答えを導く際の基礎的な計算でミスが目立つ。 ○文字を含む式の計算ができる生徒は多いが、文字を使って数量を式に表すことは苦手である。	○少人数の特性を生かして、支援員と協力しながらつまづいている生徒に対して個別に指導を行う。基礎的な問題を繰り返し行い、基礎的な計算力を定着させる。【決定】 ○具体物や ICT を活用して、視覚的な理解を深めることや生徒にとって身近な題材を用いて、数学的なイメージを持たせながら思考力判断力を育成する。【発見・表現】		
理科	○生徒が考えをまとめ、発言したり、文章で表現したりすることに課題がある。 ○既習事項と新しい学習内容を関連付けことが苦手な生徒が多く、既習事項をしっかりと定着させる必要がある。 ○実験の作業は多くの生徒が積極的に参加しているが、実験結果を正しく文章で表現できていないことから、実験から得た結果を科学的に表現させる指導が不足している。	○実験の振り返り以外にも、実験前に原理の説明を加えたり、探求活動の時間を充実させたりする。【決定・表現】 ○学習内容を既習事項や身近な自然現象と結び付けさせることで、新たな学習内容へ関連付けようとする意識を高めさせる。【発見】 ○実験の振り返り時に、各班等で話し合いの時間を設ける。【対話】		
社会	○授業中には多くの発言があるが、定期考査の結果を見ると、学習内容の理解度は個人差が大きい。 ○文章で表現する能力に差があり、問われたことに対して正しく 簡潔に表現することができない生徒がいる。	○生徒一人一人の考えをグループワーク等で共有する時間を増やす。【対話・表現】 ○ICT 機器を活用して、画像や動画等を見せ、イメージを持たせることで分かる授業を展開していく。【発見】 ○生徒同士の教えあいやペアワークなど主体的な活動を増やし、音声や文章で自分の考えを表現する場を増やす。【対話・表現】		
音楽	○1 年間の積み重ねにより、正しい発声法で歌える生徒が増えてきている。より良いハーモニーで歌えるようになることが課題である。 ○生徒が互いに意見を出し合い、パート練習を進めることができていく。練習内容を充実させていくことが課題である。	○生徒代表（声リーダーたち）が中心となって発声練習を行い、自分たちの力で合唱を盛り上げていく意識をもたせる。【対話・表現】 ○生徒代表（パートリーダー）がリーダーシップをとり、コミュニケーションをとりながらパート練習を進められるようにする。【発見・対話・表現】		
美術	・学んだ美の要素や技法の美しさを感じ取り、表現の工夫を自分なりに試行錯誤したり、追及したりしながら描くこと。 ・発想・構想時に自分の思いや考えを言葉にまとめられない生徒または、図や絵に表すのが困難な生徒が見られる。	・授業の導入で短時間、参考になる生徒の作品を紹介する。また、生徒同士の話し合いにより課題に向けた考えを広げる。【対話・表現】 ・美術の記録やプリントにどの程度アイデアスケッチにまとめるか、どのように言葉にするか丁寧に参考の資料や動画を提示し伝える。【発見・決定・表現】		
技術	・製作実習の時間は充分確保されているが、各領域の学習のまとめが不充分である。	・学習のまとめの時間は1時間、学習内容をレポートにまとめるといった方法から、①レポートまとめ②話し合い発展学習と2時間に増やし、充実させる。【対話・表現】		
家庭	・実習の際、説明書や手順書を自分で理解し作業に取り組むことが困難な生徒が多い。	・制作物の途中経過の見本をそれぞれ提示し、作業工程の見える化を図っていく。【発見】 ・作業が得意な生徒に先生役を担ってもらうなど、教え合いの場面を設け、能力の高い生徒の自己有用感も高めていく。【対話・表現】		
保健体育	・自らの課題を正確に発見し、対話しながら改善に向かうこと。 ・自分の動きや考え方を、自分自身で正確に把握すること。	・見つけた課題を仲間同士で共有しあう時間を授業内で意識的に作る。【対話】 ・動きのポイントを示した学習カードや動画撮影のより一層の充実を図る。【発見】		
外国語	・昨年度までの既習事項が定着していない生徒が2割程度いる。 ・ライティングにおいて、正確に単語や文を書くことが困難な生徒が目立つ。	・帯活動やワークシートを用いて、既習内容を復習する機会を多く設けていく【対話・表現】 ・授業で話す活動をした後、書く活動につなげていくことで、自然と書くことに対する抵抗感をなくしつつ、機会をより設けていく。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	○全国学力学習状況調査では、平均正答率が全国に比べて 10 ポイント、都に比べて 7 ポイント高い。 ○領域診断問題では、校内平均点が標準に比べ 1, 7 ポイント低い。特に 200 字作文の得点が低い。	○原稿用紙における推敲の方法や 200 作文の構成を確認し、演習問題に取り組ませる。【表現】 ○作文をはじめその他の授業でも、ペアまたはグループ活動の時間を設け、自分の考えを広げたり深めたりし、また同様に表現すれば伝わるのか、他者から学ぶ機会を作る。【発見・対話・表現】		
数学	○文字を含む式の計算ができる生徒は多いが、文字を使って数量を式に表すことは苦手である。 ○三角形の相似の証明で、論理的かつ順序立てて証明を記述することが苦手である。	○1 つの数量を、加減乗除様々な方法で表せる教材でグループワークを実施し、1 つの文字式に帰結することを示して理解を促したい。【発見・対話・決定・表現】 ○結論を導くために適した相似条件と、その材料を考える時間を多くとり、それを順序立てて言葉や式にする指導を丁寧にしていきたい。【決定・表現】		
理科	○既習事項と新しい学習内容を関連付けることが苦手な生徒が多く、既習事項をしっかりとして定着させる必要がある。 ○実験の作業は多くの生徒が積極的に参加しているが、実験結果や考察を正しく文章で表現することに課題がある。	○既習事項を、身近な自然現象と結び付けさせることで、新たな学習課題へ関連付けようとする意識を高めさせる。【発見】 ○実験前に原理の説明を加えたり、実験の振り返り時に、各班等で話し合いの時間を設け、実験から得た結果や考察を科学的に表現させる指導を充実させる。【対話・決定・表現】		
社会	○世の中の出来事について詳しい生徒が多く、社会的事象に対する関心は高い。しかし、社会的事象についての考察では、自分の視点からの考察にとどまる傾向が強い。 ○授業で扱った重要単語を用いて、社会的事象の原因や結果を記述することが困難な生徒が見られる。	○授業で考察する場面では、様々な視点から考察できるように、学習課題を設定し、立場を明確にして考察する学習場面に適宜設定する。【対話・表現】 ○ワーク教材や過去問題を用いながら、生徒が記述問題に触れる機会を設定する。【表現】		
音楽	○毎時の発声練習や既習曲を歌う場面で、積極的に声が出せない生徒が多かったが、1, 2 年の積み重ねにより、正しい発声法で歌える生徒が増えてきている。より良いハーモニーで歌えるようになることが課題である。 ○生徒が互いに意見を出し合い、パート練習を進めることができています。練習内容を充実させていくことが課題である。	○毎時の発声練習で行う「こんにち合唱」や「歓喜の歌」で、常に 4 声のハーモニーを意識させ、合唱曲に生かせるようにする。【表現】 ○練習後の反省会や自己評価シートの活用で練習内容を振り返り、次回の授業に生かせるようにする。【発見・対話・表現】		
美術	・発想・構想時に自分の思いや考えを言葉にまとめられない生徒または、図や絵に表すのが困難な生徒が見られる。 ・作品鑑賞時のグループでの対話で話が広がらないグループがある。	・生徒同士の話し合いにより課題に向けた考えを広げる。また、個別指導や毎回の授業での作業内容と進行状況の確認を全体で行う。【対話・表現】 ・話すテーマや方法を明確し、プリントにも他者の意見を色ペンなどで記入させ、対話に意識を高めさせる。互いの途中作品への助言をする。【対話・表現】		
技術	・授業時間数が絶対的に少ないため、題材やレポートを作成することで精一杯であり、対話や話し合い活動の時間を確保することができない。	・複数で同一のプログラミングを行う「双方向性コンテンツ」の学習を充実させる。		
家庭	・授業時間数が少ないため、課題に取り組む時間を確保することで精一杯であり、話し合い活動の時間をとることができない。	・生徒同士が作品を鑑賞する時間を確保し、考えたことをスプレッドシートにまとめ、発表したり共有する場を設ける。【対話・表現】		
保健体育	・自らの課題や、仲間の課題を正確に発見し対話しながら改善に向かうこと。 ・自分の動きを、自分自身で正確に把握すること。	・見つけた課題を仲間同士で共有しあう時間を授業内で意識的に作る。【対話】 ・動きのポイントを示した学習カードや動画撮影の充実を図る。【発見】		
外国語	・昨年度までの既習事項が定着していない生徒がいる。 ・ライティングにおいて、正確に単語や文を書くことが困難な生徒が目立つ。	・帯活動やワークシートを用いて、既習内容を復習する機会を多く設けていく【対話・表現】 ・授業で話す活動をした後、書く活動につなげていくことで、自然と書くことに対する抵抗感をなくしつつ、機会をより設けていく。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。